

大切にしていること 大切にしたいこと

國重 裕子

(教育・昭和61年卒・善通寺市立与北幼稚園)

令和6年3月末に、38年間の小学校教員生活を終えました。定年が1年延び、60歳以降の働き方にも多様な選択肢が与えられ、自らのセカンドライフについて考えるよい機会となりました。いろいろ考えましたが、4月から初めての幼稚園勤務、かわいい園児たちと一緒に毎日を過ごしています。赴任したのは、30年前に勤務していた小学校のすぐ隣にある幼稚園です。当時担任していた子どもたちが、立派な大人になり、園児の保護者として再会できた喜びは、教師冥利に尽きます。

さて、私の大学生生活を振り返ってみると、国語国文学研究室の一員として教員をめざしていた自分と、軟式庭球部員として暑い日も寒い日も部活動に明け暮れていた自分、二つの顔がありました。どちらの自分も、まわりにいた友達に恵まれていたことは間違いなく、おかげで楽しく充実した4年間を過ごすことができたと思っています。

この文章のタイトルにもしましたが、学生時代も教員時代も、今も、大切にしていることの 하나가 “言葉” です。自分が使った言葉が相手にどのように伝わり、どんな印象を与えているのかと思い、言葉には気をつけています。

書き言葉は残るものだから、慎重に言葉を選び、読む人が読みやすいように丁寧に書きます。書いた後に読み返し、やっぱりこの言葉のほうがいいと思って書き直すことがよくあります。メールやLINEを頻繁に使うようになった現在は、もしかしたら以前よりも書き言葉で相手に自分の思いや考えを伝えることが多くなっているのかもしれない。だからこそ、送信する前に、必ず読み返すようにしています。

話し言葉はその時だけのもの、後に残らないと思われるかもしれませんが、強く印象に残る言葉は、言われた人の心の中にはいつまでも残るものです。言われて嬉しかった言葉、反対に傷ついた言葉、どちらの場合も、ずっと心の中に残ります。私自身、誰かの言葉で忘れられないものはいろいろあります。学生時代、一人の友達が私に「話し方は柔らかくて優しい感じだけど、内容は結構きつい。」と言いました。今から40年も前のことですが、この言葉は自分の中に残っていて、事あるごとに頭をよぎります。それ以前から、話し方には気をつけていたつもりだから、(話し方では相手を傷つけてはいないのだ、そして自分の言いたいことはきちんと伝わっているのだ)と、自分に都合のよいように解釈しましたが、よく考えて言葉を選ばなければならないと、改めて思いました。この友達は何気なく言ったことで、もう忘れていると思いますが、私はこの忠告に感謝しています。

相手の表情を見ながら、気持ちを考えながら、人とのコミュニケーションを大切にすることを忘れずに、これからまだまだ多くの人と出会いたいと思っています。